

※IOC 公式サイトに掲載された英文が原本となります。英文と和文に差異がある場合には、英文が優先されます。（日本語訳担当者：JOC 理事 来田享子、日本オリンピックアカデミー会員 和田恵子他）

【IOC 公式サイト掲載原文は[こちら](#)】

以下の Q&A は、国際オリンピック委員会（IOC）が、[第 11 回オリンピック・サミットで採択された「IOC 要請」を受け](#)、ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際競技大会への参加について、国際競技団体（IF）および国際競技大会主催者向けの要請を発表した後の現状を説明するものです。

この Q&A は 2023 年 3 月 31 日に初めて発表され、2023 年 7 月 13 日に最新の更新が行われました。

（2023 年 7 月 13 日追記）

ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際大会への参加という問題に関する IOC のアプローチに国際社会や政治指導者はどのような反応をしているのか？

IOC は多くの支持を受けています。国際社会の大多数が、スポーツが置かれている困難な状況を理解し、スポーツ界の価値観に基づく行動方針を支持しているという事実は、IOC にとって大きな励みになっています。この事実は、国連、政府間組織、各国首脳レベルでの政治指導者による多くの意思表示に示されています。

つい最近では、2023 年 5 月に広島／日本で開催された G7（主要 7 カ国首脳会議）首脳が（IOC の行動指針を）支持する声明を公表しました。7 月初めには、国連加盟 193 カ国のうち 120 カ国が加盟するアゼルバイジャンが議長を務める非同盟活動においても支持が表明されました。

G7 の声明によれば、G7 は「スポーツ組織の独立性・自律性を完全に尊重」し、「ロシアとベラルーシのアスリートが国家の代表としての形ではなく参加する」ことを望むとしています。この点は IOC の立場と完全に一致するものです。

IOC は、スポーツの独立性・自律性およびロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの参加に関する「IOC 要請」に対する G7 の支持を心から歓迎します。このような支持は、スポーツ組織の独立性・自律性が少数の政府によって脅かされているという、極めて危機的な時期に表明されたものです。それゆえに、IOC は G7 首脳による明確な声明に深く感謝しています。

G7 サミットは、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ（持ち回り議長国順）の G7 加盟国と欧州連合（EU）の首脳が毎年開催する国際フォーラムです。

IOC は 7 月 7 日、国連加盟 193 カ国のうち 120 カ国が加盟する非同盟活動による宣言にも歓迎の意を表しました。全会一致で可決されたこの宣言は、「2024 年パリオリンピック・パ

オリンピック競技大会に 206 の国内オリンピック委員会 (NOC) すべてからアスリートが参加することは、人類の団結の強い象徴となる」ことを強調しています。この点で、同宣言は「(人類の団結の強い象徴となるという) この目的のために NOC が行っている努力とイニシアチブへの支持」を表明するものです。

またこの立場は、[ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートのオリンピック予選を含む国際競技大会への参加に関する IF および国際スポーツイベント主催者に対する IOC の要請](#)とも完全に一致するものです。

IOC は、120 の加盟国による非同盟活動からの支持を心から歓迎します。オリンピックの統一的な使命に対するこの強い支持に、IOC は大いに勇気づけられています。

[\(非同盟活動による声明全文はここから参照してください\)](#)

IOC は、一部のヨーロッパ政府からの否定的な反応にも注意を向けています。

これらの政府がオリンピック・ムーブメント内の多数派あるいはスポーツの独立性・自律性を尊重しようとしなないことは悲しむべきことです。これらの政府は、スポーツの独立性・自律性を他国には要求し、また数えきれないほどのスピーチでスポーツの独立性・自律性そして国連や欧州連合における決議を称賛しているのです。

私たちが協議の呼びかけに際して浮上したダブルスタンダードの問題に取り組んでいないのは嘆かわしいことです。

私たちは、世界中で起きている 70 の戦争、武力紛争、危機に関与している国々のアスリートたちの出場に対して、彼らが一言でもコメントするのを見たことはありません。さらに嘆かわしいのは、彼らは人権に関する要求については常に強調するにもかかわらず、国連人権理事会の 2 名の特別報告者による明確な声明をまったく無視していることです。国連特別報告者は次のように述べています。「自分たちと同じような人々や、行動や振る舞いに賛同することができる人々に対して人権を認めるということではなく、パスポートを理由に差別されない権利は、誰にでもあるというのが我々の考えなのです」。

[\(国連人権理事会の特別報告書の詳細はここから参照してください\)](#)

オリンピック・ムーブメントからの議論や反応は、(上述のような少数の) このような政府や政治的介入は、オリンピック・ムーブメントの団結をより強固なものにするのだということをはっきりと示しています。

どのアスリートがどの大会に参加できるかを政府が決めることはできません。(もしそうならば) これは、私たちが知る国際スポーツの終わりを意味します。すべてのオリンピック・ムーブメントの関係者がこれを非常に懸念しています。IOC は、全 206 の NOC を代表する 5 大陸の NOC 協会会長の署名入り書簡を受け取っており、その書簡は「国際競技大会はすべての国のアスリートを歓迎する」ことを保証するというスポーツの独立性・自律性を守ろうとする IOC の要請を支持するものです。

33 の夏季オリンピック国際連盟を代表する ASOIF (The Association of Summer Olympic International Federation) は「スポーツの問題に対する公的機関の影響力を阻止する必要性を強調」しています。

アジアとアフリカのアスリート委員会もまた、IOCの要請を歓迎し、IOCがさらに踏み込んだ対応をすることを望む声さえありました。

当然のことながら、IOCはロシアからの反応も確認しており、ロシアオリンピック委員会(ROC)は「ロシア人が国際競技会に復帰するための条件や基準は断じて容認できない」、「IOC理事会の決定は、オリンピック憲章の根本原則と国連憲章に著しく違反する茶番劇以外の何ものでもない」と述べています。

IOCの要請が発表される前からすでに、ロシアはIOCを「アメリカ合衆国の手先」と呼んでいました。ウクライナの代表らはIOCの要請を受け入れることはできないとし、IOCは「ロシア人の味方」であるかのように描写されていますが、IOCはロシアによる侵略を当初から強く非難しています。

また、IOCはウクライナのアスリートとウクライナのオリンピック・コミュニティをかつてない形で支援しており、この支援は拡大し続けています。

この対立において双方が納得していないという事実は、相互理解と平和に貢献するためにすべての側が前進できる中間地点をIOCが見出したということを示唆しているのかもしれませんが。

オリンピック・ムーブメント全体が、平和的な競技で世界をひとつにするという価値観を貫いているのです。

(2023年7月13日追記)

スポーツの政治化を避けるために、IOCはこの複雑な政治状況をどのように乗り切っているのでしょうか？

IOCは、全世界のアスリートがオリンピックの夢を実現できるよう支援するためにあります。IOCは、ルールを受け入れ、オリンピック憲章を尊重し、競技の場で資格を得たすべてのアスリートの参加を促進し続けます。

しかし、IOCの価値観に基づく要請によって実行可能な道筋を提示しているにもかかわらず、私たちはいまだに2つの解決できない状況に直面しています。ロシア側は、IOCが戦争を見過ごすことを望んでいます。ウクライナ側は、IOCがロシアとベラルーシのパスポートを持つ人を完全に孤立させることを望んでいます。どちらの立場も、IOCの使命やオリンピック憲章とは真逆のものなのです。

IOCは自らの羅針盤である価値観を通じて、このような難局を乗り切ろうとしています。IOCのアスリートを主体に置いた要請が、IOCの中核的価値観、すなわち平和、団結、連帯、差別に対応しているのはこの理由によります。

簡単な解決策ではありません。しかし、極めて複雑な政治的問題には簡単な解決策はないのです。世界で最も複雑な問題に対して、単純化された解決策を持っているふりをするのはポピュリストだけです。

IOCの立場は明確です。私たちは、最初の日から戦争を非難しました。私たちは、ロシアと

ベラルーシの政府に前例のない制裁を課しました。

グローバルな組織である IOC は複雑な現実を取り扱わなければなりません。世界は白でも黒でもありません。私たちは、私たちをさまざまな方向に引っ張ろうとする、不協和音や競合する利害に直面しているのです。

IOC と同様に 141 カ国が戦争を非難していますが、この非難の帰結に関しては、国際社会は一致していません。IOC は、世界人口の 15% を占めるに過ぎない 52 カ国が、IOC と同様にロシア政府とベラルーシ政府に制裁を科していることを知りました。これは、一方が正しく、他方が間違っているということの意味しているではありません。分裂し、分断された世界の現実を述べているに過ぎません。

IOC は、全体としてみれば、IOC の価値観に基づくアプローチが機能しているという非常に心強い兆しを感じてはいますが、依然として、さまざまな利害関係者が IOC を異なる方向に引き込もうとしています。

ロシア側は、厳しい条件を受け入れがたく、屈辱的で差別的なものだと考えています。ロシア政府は、IOC が政治的中立性に反して行動していると非難していますが、同時に、まさにその同じ政府が、恥ずべきことに完全に政治化されたスポーツ競技会を開催しようとしています。

ウクライナ側は、IOC がロシアの味方であることを非難しています。ウクライナ政府は、すべてのロシア人とベラルーシ人の「完全な孤立」を主張しています。このことは、最近のスペシャルオリンピックスに知的障害のあるアスリートの参加を禁じるまでに至っています（★訳者注：ウクライナ青少年スポーツ省が 2023 年 4 月にロシアやベラルーシのアスリートと対戦する可能性のあるオリンピックおよび非オリンピック国際競技会にナショナル・レベルのアスリートが参加することを禁じた出来事を指していると考えられる。ただし、ベルリンで開催されたスペシャル・オリンピックス夏季世界大会ベルリン 2023 には、ウクライナの選手団は出場している）。

世界中のオリンピック・ムーブメント関係者、すなわちアスリート、五大陸の国内オリンピック委員会、各大陸協会、IF の圧倒的多数が、IOC に対し、アスリートを主体に置いたアプローチを継続し、すべてのアスリートの権利を擁護する道筋、すなわち価値観に基づく行動指針を模索するよう求めています。

今、私たちの独立性・自律性が一部の政府によって損なわれようとし、国際的なスポーツ・ムーブメントを分裂させようとする動きがあります。この困難な時代において、価値観に基づく真のグローバル・スポーツの未来にとって、この団結は不可欠なものなのです。

もし、分裂を引き起こすようなこれらの政治的勢力が、アスリートの出場する大会を決めるような事態になったら、同じような考えを持つ政治的集団に所属するアスリートの間でのみスポーツ競技会が開催されることになるでしょう。政治圏 A の大会、政治圏 B の大会、そしてどちらかに属したくない国々は、おそらく、別の競技会を開催することになるでしょう。

このような政治色の強い競技大会が開催されるようになれば、全世界によるオリンピック

はもはや不可能となり、真の意味での世界選手権も不可能になります。こうした政治化とは、スポーツを武器化することだといえるでしょう。このようなことは、スポーツとオリンピック・ムーブメントが掲げることのすべてに逆行します。

(2023年7月13日追記)

ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際競技大会への参加に関し、IOCがIFや国際スポーツ大会主催者に対して行っているアスリートを主体に置いた要請はどのように機能していますか？

世界の圧倒的多数のアスリートは、IOCのアプローチを尊重または支持しています。IOCは、私たちの要請を実践して国際スポーツ大会を、さらには世界選手権を成功裏に開催している多くのIFに勇気づけられています。

欧州レベルでは、6月にブルガリアで欧州フェンシング個人選手権が開催されました。国際フェンシング連盟は、ポーランド政府がロシアまたはベラルーシのパスポートを持つ中立的な個人であるアスリートに対するビザの発給を拒否し、スポーツの独立性・自律性に介入したため、この選手権大会の開催地をポーランドからブルガリアに変更しました。スポーツの独立性・自律性を守るためのこの開催地変更は成功し、ブルガリアでは、中立な個人であるアスリートが参加することができました。同時に、ウクライナのアスリートも選手権に参加したことは注目に値します。ただし、ウクライナのアスリートが競技することを認められたのは、ロシア、ベラルーシの中立な個人としてのアスリートが出場しなかった種目に留まりました。

世界レベルでは、世界柔道選手権がカタールで開催され、ロシア、ベラルーシのパスポートを持つ中立な個人であるアスリートが参加しました。この選手権は極めて成功裏に開催されました。

アゼルバイジャンで開催されたテコンドー世界選手権も、中立な個人であるアスリートの参加によって成功した例です。過去最多の国内競技団体が参加しました。

IOCはまた、第1回オリンピックeスポーツウィークがシンガポールで成功裏に開催されたことを喜ばしく思っています。この大会ではIOCの要請が厳格に適用され、ウクライナのアスリートとロシアのパスポートを持つアスリートが、共に平和的に競技することができました。

批判的な人々の予想に反して、どの大会も混乱に陥りませんでした。それぞれのIFはすべて、私たちの要請と厳しい条件を適用しました。その過程では、厳しい条件を満たしたことを理由に、中立な個人として競技することを希望した多くのアスリートの申請が却下されました。

すべての選手権は無事に開催されました。アスリートたちは互いに敬意を払い、スポーツのルールを尊重して競技を行いました。アスリートたちは、発言や会話を通じて、どこの国のアスリートであろうと、世界のベストアスリートと競い合いたいことを表明しました。アス

リートたちは、真の世界チャンピオン、あるいはヨーロッパチャンピオンの称号を得たいのであって、自国政府の措置によって処罰されるアスリートを見たくはないのです。

(2023年7月13日追記)

アジア・オリンピック評議会（OCA）が、ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つ中立な個人であるアスリートのアジア大会への出場を認めると決定したことについて、IOCはどのように受け止めていますか？

これについては、2022年12月のオリンピック・サミットで当時のOCA会長が行った提案に対する原則的な合意であり、[ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際大会への参加に関する IOC 理事会の要請](#)に沿ったものです。これが実施されるかどうか、またどのように実施されるかについては、現在協議中です。

(2023年7月13日追記)

ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つ中立な個人であるアスリートが参加する大会において、ウクライナのアスリートはどのような状況にあるのでしょうか？

ウクライナのアスリートの多くは、パリ 2024 オリンピック競技大会の出場権を獲得したいと考えています。出場資格を得るためには、今すぐ国際大会に出場する必要があります。しかし、柔道とテコンドーの世界選手権では、ウクライナのスポーツ省の指示により、ウクライナのアスリートたちは参加を認められなかったため、欠場することになりました。つまり、ウクライナのアスリートたちは、ロシア政府とベラルーシ政府が始めた戦争のために、自国の政府から制裁を受けているのです。

なぜウクライナ政府が自国のアスリートたちからパリ 2024 オリンピック競技大会への出場権を奪い、ウクライナ国民に誇りを持たせるチャンスを奪おうとしているのか、理解に苦しみます。ウクライナのアスリートたちはテニスに出場できるのに、卓球には出場できないのか、理解できません。自転車競技は許されているのに、なぜ水泳は許されないのか。なぜフェンシングでは、ウクライナのアスリートが A の種目で出場できるのに、B の種目に出場できないチームメートがいることも理解しにくいことです。

このことに関連して、2023年3月のウクライナ・テニス連盟の声明が思い起こされます。「この呼びかけを通じて、私たちはウクライナ・テニス連盟の共通の立場を表明します。(ウクライナの) NOC がロシア人またはベラルーシ人アスリートが参加するすべての国際大会の完全なボイコットを決定する可能性についてです。このような決定は、ウクライナのテニスに破壊をもたらすでしょう。なぜなら、ロシアまたはベラルーシの国のアスリートは、ほぼすべての競技会に参加しているからであり、ロシア人に対する制裁ではなく、ウクライナ人に対する制裁となるからです。もしロシア人とベラルーシ人が競技することが許される

ならば、彼らと対戦して勝つべきであり、戦いを避けるべきではありません。」
国際大会で輝くウクライナのアスリートたち。これこそ、オリンピック界全体が、いや、世界全体が待ち望んでいることなのです。私たちは皆、ウクライナのアスリートたちがパリ 2024 オリンピック競技大会の出場権を獲得することを望んでいます。つまり、(ウクライナのアスリートたちが) 直ちに、予選大会に参加することです。それによって、ウクライナのアスリートたちは、ウクライナ国民に誇りを持たせること、すなわちウクライナ国民とウクライナのオリンピック・コミュニティの底力を示すことができるのです。

IOC は、予選を通過し、最終的にオリンピックに出場する機会をウクライナのアスリートたちに与えたいと考えています。そのために、IOC は各 IF を通じて、ウクライナのアスリートひとりひとりの大会に向けた準備と彼ら希望する大会への参加を支援します。競技に参加したくても、政府の介入によって NF や NOC の支援を失うことになるアスリートたちは、ウクライナのオリンピック・コミュニティのためのオリンピック・ムーブメントのソリダリティ基金と IOC のアスリート支援プログラムによる直接的な支援を受けることができます。

(2023 年 7 月 13 日追記)

2023 年 3 月 28 日付の IOC の要請は、ロシアの IOC 委員にどのような影響を与えますか？

ロシアのアスリート、代表役員、IOC 委員に異なる基準が適用されることを避けるため、IOC の国際大会に参加するための条件は同じとします。

IOC 倫理委員会は、IOC 理事会の要請で言及された条件のうち 2 つが IOC 委員にも適用されると指摘しています：

- 1) 戦争への積極的な支援、および
- 2) ロシア軍または国家安全保障機関との契約上の関係

関係する IOC 委員の状況は、2022 年 2 月 24 日の侵攻時およびそれ以降に関して評価されることとなります。2 点目の条件については、開戦前の契約状況は考慮されません。このガイドラインは、IOC 委員と IOC 名誉会員のいずれにも適用されます。

(2023 年 7 月 13 日追記)

2023 年 7 月 26 日にパリ 2024 オリンピック競技大会への招待状が送付される際、ロシアとベラルーシの NOC は招待状を受け取るようになりますか？

ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際競技大会への参加に関する IF および国際競技大会主催者に対する現在の IOC の要請は、パリ 2024 オリンピック競技大会またはミラノ・コルチナ 2026 冬季競技大会への当該アスリートおよび彼らのサポート

関係者の参加には適用されません。IOC は適切な時期に、自らの全裁量のもとでこれに関する決定を下し、過去のオリンピック予選大会の結果に拘束されることなく判断します。

参加資格のある 203 の NOC への招待状は、2023 年 7 月 26 日に送付されます。上記の理由により、ロシア NOC、ベラルーシ NOC および現在出場停止中のグアテマラ NOC は招待から除外されます。

2023 年 7 月 13 日に追加される以前の [Q&A の全文は IOC サイトを参照してください](#)。参考資料として Q&A の主な項目を示します。

Q: IOC 理事会がロシアとベラルーシのアスリートと役員の不参加を勧告した 2022 年 2 月 28 日以降、何が変わったのですか？

Q: ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートの国際大会への参加について、IOC 理事会は IF および国際競技会主催者に対し、具体的にどのような要請を行いましたか。

Q: IOC は自ら責任を負うのではなく、IF に責任を押しつけているという声もあります。それについてはどのように回答しますか？

Q: IOC 理事会に先立って行われたオリンピック・ムーブメント関係者との協議において、国連文化的権利分野の特別報告者はどのような発言をしましたか？

Q: ロシアやベラルーシのアスリートやサポート関係者が戦争を積極的に支援していないかどうかを判断する基準はどのようなものですか？

Q: IOC の要請では、ロシアまたはベラルーシのパスポートを持つアスリートのチームは検討対象外であるとされています。何をもちいてチーム競技あるいはチーム種目であるとするのですか？

Q: ロシアやベラルーシのアスリートがすでに資格を逸している場合（すでに予選が実施された競技など）はどうなるのですか？

Q: 要請を無視する IF や国際陸上競技連盟のように従わないことを選択した IF に対して、IOC はどのように対応するのですか？

Q：ロシアやベラルーシのスポーツ界において、政府関係者や国家公務員が役職者として任命されたり、選出された場合、IOC はどのような勧告をするのですか？

Q：IOC がウクライナの要求するすべてに同意しなければ、ロシアに加担していることになる、とする立場の人たちにどう答えますか？

Q：過去には、1970年代から80年代の南アフリカ共和国のように、オリンピックから完全に代表団が排除された前例があります。あるいは、第一次世界大戦後と第二次世界大戦後のドイツやその他の国々にも事例があります。

Q：ウクライナの関係者がIOCを「戦争、殺人、破壊の推進者」と非難していることについて、どのように考えていますか？

Q：この戦争ですでに多くのウクライナ人アスリートが亡くなっているが、それについてはどうコメントするのですか？

Q：ベラルーシが支援したロシアのウクライナ侵攻から1年を迎えるにあたり、IOC はどのような見解を公表しましたか？

Q：競技場で自らの見解を表明するアスリートがいたらどうするのですか？

Q：ロシアやベラルーシのアスリートとの対戦を拒否するアスリートがいたら？

Q：ロシアやベラルーシのパスポートを持つアスリートは、今からでもドーピング検査の対象になるのですか？

Q：ドーピング・スキャンダル以来、IOC はロシアに味方しているとの見方がありますが、それについてどう思いますか？

Q：2022年2月、IOC はどのような決定を下しましたか？

Q：2022年12月9日のオリンピック・サミットではどのような見解が示されましたか？

Q：2023年1月25日に発表されたウクライナとの連帯、ロシアとベラルーシへの制裁、これらの国のアスリートの地位に関するIOC 声明の内容はどのようなものですか？